

府中市における地域密着型サービスの見込量及び福祉空間整備計画（案）

1. 前提

(1) 日常生活圏域の設定

福祉 6 地区を日常生活圏域として設定する。

地区	町名	特徴
第一地区	多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台（1～3丁目）、若松町、浅間町、緑町	東西に通る人見街道を中心に農業を営む古くからの住民層とマンションや宅地開発による新興住宅が組み合わされている。北部の多磨霊園周辺及びエルフォレストマンションは小金井市の生活圏、南北に走る西武多摩川線は地区内の生活圏を東西に区分している。隣接市への移動に比べ、市の中心地への移動はしにくい。コミュニティバスが有効に機能している。
第二地区	白糸台（4～6丁目）、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政	南北に走る西武多摩川線と東西に走る崖線が大きく生活圏を区分している。東部は車返団地があり大きな居住区を形成している。多磨霊園駅周辺に商業地を形成しているが、調布市の生活圏が主となる。また、西部には東京競馬場を擁し、周辺に古くからの住民を中心にコミュニティが形成されている。
第三地区	天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町	北部の東八線周辺は国分寺市と小金井市が生活圏、中部の国道 20 号線周辺は府中駅を中心とする商業地と大きく生活圏が分れる。北東には大きな都営住宅（新町）があり高齢者人口も集中している。また、南部の旧甲州街道周辺は古くからの住民と新興のマンション住民が組み合わせられ居住している。市中心地に近く立地条件もよく、他地区に比べ集合住宅も多い。人口も集中するが、公共施設も集中しており、社会基盤は充実している。
第四地区	宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町	地区内は東西に走る旧甲州街道と高速道路、南北に通る下河原緑道により大きく圏域が分かれる。北部は旧甲州街道周辺の古くからの住民層と新興住民層が組み合わされている。中部は戸建住宅が比較的多い。南部は都営住宅（南町）が立ちならび、高齢者人口も集中している。分倍河原駅、府中本町駅、中河原駅が近く交通のアクセスはいい。市中心地への移動は比較的容易である。
第五地区	日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町（1～2丁目）、本宿町（3～4丁目）、西府町（3～4丁目）、東芝町	地区内は東八道路、府中町田線、国道 20 号線により大きく生活圏が分かれる。北部は国立市、国分寺市が生活圏で、戸建住宅と都営住宅（北山）が混在し高齢化も進んでいる。中東部には東芝府中を擁し周辺に戸建住宅とエフユニバースマンションがある。東南には、老朽する日鋼団地があり、高齢化も進んでいる。南部は古くからの住民層と新興住民層により生活圏を形成している。市中心地への移動は隣接市への移動に比べしにくい。コミュニティバスが有効に機能している。
第六地区	美好町（3丁目）、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町（1～2丁目）、西府町（1～2、5丁目）	地区内は南北に走る鎌倉街道、東西に走る高速道路、都道により大きく生活圏が分かれる。東部の鎌倉街道周辺の戸建住宅、中部の農業を営む古くからの住民層、西部は新興した戸建住宅とマンションが建ち隣接市が生活圏となる。中河原周辺に商業地を形成しており、中西部については市中心地への移動はしにくい。特に西部については隣接市（国立市・多摩市・日野市）への移動が主となる。コミュニティバスが有効に機能している。

(2) 地域密着型サービスの種類

新しく介護保険法に位置づけられるサービスのうち、地域密着型サービスは、以下の6種類である。なお、このサービスは指定権限が市町村にあり、その市町村の住民のみがサービスを利用することができる。

- ① 小規模多機能型居宅介護
- ② 夜間対応型訪問介護
- ③ 認知症高齢者専用デイサービス（認知症対応型通所介護）
- ④ 認知症高齢者グループホーム（認知症対応型共同生活介護）
- ⑤ 小規模（定員30人未満）介護老人福祉施設
（地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護）
- ⑥ 小規模（定員30人未満）で介護専用型の特定施設
（地域密着型特定施設入居者生活介護）

2. 府中市における地域密着型サービスの考え方

府中市における地域密着型サービスを整備していく上での考え方は、次のとおりである。

①365日・24時間、切れ目のない介護が受けられる

- ・ 在宅での生活を継続していくために、365日・24時間安心して利用できる、新しい在宅サービスを提供する。
- ・ 日中の通い、一時的な宿泊、緊急時や夜間の訪問サービス、居住系サービスなど、切れ目のないサービスを日常生活圏域の中で提供する。

②住み慣れたまちで、一人になっても暮らすことができる

- ・ 可能な限り住み慣れた環境の中で暮らし続けることを支援するサービスを提供する。
- ・ 高齢者の状態の変化に応じて、自宅や施設以外の住まい方（グループホーム等）が日常生活圏域の中で選択できるようにする。

③認知症高齢者の尊厳を支えるケアが受けられる

- ・ 認知症高齢者の人格を尊重し、その人らしさを支えるケアの充実をはかる。
- ・ 環境の変化に対応することが困難な認知症高齢者の生活の継続性に配慮し、日常生活圏域を基本とするサービスを提供する。

3. 福祉空間整備計画の検討

① 小規模多機能型居宅介護

1 サービスの概要

- ・ 「通い」を中心として、要介護者の状態や希望に応じて随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせたサービスを提供する。
- ・ 利用者は、認知症高齢者が中心になると考えられるが、認知症以外の者についても対象とする方向で検討する。
- ・ 夜間ケア（泊まり）の利用は、原則として日中ケア（通い）の利用者に限定する。
- ・ 訪問ケア（訪問）については、日中ケアの利用者には限定しない。
- ・ 日中ケアの利用定員は 15 名程度。
- ・ 1 事業所当たりの利用登録は 20～25 名程度。
- ・ 夜間ケアの利用は 5 人程度までを基本とし、必要に応じて 9 人程度まで利用できるものとする。

2 利用者の状況

(1) 給付実績からみた状況

通所介護とショートステイを併用している利用者の人数は以下の通りである。

一か月あたりの利用者数 (人/月)

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成15年10月(実績)	46	20	42	15	31	28	182
平成16年10月(実績)	46	41	38	17	37	29	208
平成17年(推計)	53	47	43	19	42	33	238
平成18年(推計)	60	54	50	22	48	38	272
平成19年(推計)	69	61	57	25	55	43	310
平成20年(推計)	78	70	65	29	63	49	355

※平成15年～16年は一か月あたりの実績値。

※平成17年～20年は平成15年～16年にかけての合計の伸び率を、前年度の数字に掛けて算出。

年間の利用者数(推計) (人/年)

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成17年度	631	562	521	233	507	398	2853
平成18年度	721	643	596	266	580	455	3260
平成19年度	824	734	681	305	663	519	3726
平成20年度	942	839	778	348	757	594	4258

※月あたりの推計値×12ヶ月＝年間の利用人数として算出。

(2) アンケート調査の結果からみた意向

- ・ 居宅サービス利用者調査では、小規模多機能型居宅介護を重要だと思う割合は 18.2%と 6 サービスの中で最も多い。
- ・ すべての要介護度、地域、年代、世帯構成において、小規模多機能型居宅介護への意向が高い。

3 福祉空間整備計画

(1) 考え方

平成18年度の1か月あたりの利用人数の15%が小規模多機能居宅介護に移行すると見込む時、

一か月あたりの利用者数（少数点以下切り上げ）							(人/月)
	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成18年(推計)	9	8	8	4	8	6	43
	25人			18人			
平成19年(推計)	11	10	9	4	9	7	50
平成20年(推計)	12	11	10	5	10	8	53

1事業所当りの登録人数は、20～25人のため、府中市内に2箇所必要となる。

平成20年の一か月あたりの利用人数の見込みは53人。第3期の間に2箇所整備する。

(2) 配置計画

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計画	第1地区～第3地区 1	第4地区～第6地区 1	0

② 夜間対応型訪問介護

1 サービスの概要

- ・ 夜間に定期的に巡回して行う訪問介護と、通報に基づき随時対応する訪問介護を組み合わせ、24時間サービス提供を行う。
- ・ 夜間の安心を確保する必要がある者として、基本的に、要介護3以上の利用を中心に想定する。
- ・ 定期的な巡回訪問介護は、利用者1人当たり1晩につき1回、通報による随時対応訪問介護は、利用者1人当たり月4回を想定する。
- ・ 1事業所当たりの利用対象者は300～400人程度を想定する。
- ・ 高齢化率20%、要介護認定率15%、要介護認定者のうちこのサービスを利用する者が5%と仮定すると、20～30万人程度の人口規模が必要である。

2 利用者の状況

(1) 給付実績からみた状況

市内の訪問介護事業所で現在、深夜加算を算定している訪問介護利用者の人数は以下の通りである。

訪問介護時間外利用者 一か月あたりの実績

(人/月)

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成17年7月	16	21	17	14	3	15	86
要支援	0	1	1	0	0	0	2
介護度1	4	5	4	2	1	5	21
介護度2	2	4	2	5	0	3	16
介護度3	1	3	2	3	1	4	14
介護度4	1	5	4	1	1	1	13
介護度5	8	3	4	3	0	2	20

訪問介護時間外利用者 年間の推計

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成17年7月	192	252	204	168	36	180	1032

※一か月あたりの実績×12ヶ月＝年間の推計として算出。

(2) アンケート調査の結果からみた意向

- ・ 居宅サービス利用者調査では、要介護5及び65歳以上のひとり暮らし高齢者で夜間対応型訪問介護を重視する意見が多くあげられている。

3 福祉空間整備計画

(1) 考え方

サービスの概要に基づく。

	平成18年	平成19年	平成20年
高齢者人口（推計）人	39,925	41,430	42,906
認定者（推計）人	6,875	7,753	7,985
利用人数（推計）人 （認定者の5%）	343	388	400

*高齢者人口（推計）は東京都の「サービス利用者等推計ソフト」より算出。

*認定者（推計）「第3期介護保険事業計画における介護給付等対象サービスの見込量シート」より算出した暫定値。

1事業所あたりの利用対象者は300～400人程度を想定しているため、第三期計画では1箇所必要となる。

(2) 配置計画

年度 計画	平成18年度 第1地区～第6地区 1	平成19年度 0	平成20年度 0

③ 認知症高齢者専用デイサービス

1 サービスの概要

- ・ 認知症の居宅要介護者を対象とした通所介護サービスを行う。
- ・ 現行の通所介護のうち、認知症専用単独型、認知症専用併設型、通所介護が地域密着型サービスに位置付けられた。
- ・ 現行の基準では、比較的小規模の事業所が想定されている。

2 利用者の状況

(1) 給付実績からみた状況

認知症を有する人の通所介護利用数推計

(人/月)

要介護度	日常生活自立度Ⅲ以上
要支援	0
要介護1	2
要介護2	17
要介護3	54
要介護4	61
要介護5	49
合計	183

要介護度	日常生活自立度Ⅱb以上
要支援	3
要介護1	47
要介護2	50
要介護3	85
要介護4	72
要介護5	34
合計	292

資料：府中市介護保険課（平成16年10月1日現在）

(2) アンケート調査の結果からみた想定

認知症の症状（問39）について、3項目すべてが「ひんぱんにある」と回答した人のうち、通所介護（デイサービス）を「利用したい」（問16⑦）と回答した件数は43件

回答者2,135件中の想定対象者割合：43/2,135件×100=2.0%

市全体の要介護認定者に占める想定利用者数：

6,177人（平成16年度要介護認定者数実績）×2.0%=124人

3 福祉空間整備計画

(1) 考え方

アンケート調査の結果からみた想定利用者数124人が、週2回利用（のべ回数 248回）、1事業所の1日の定員が10名で、週6日実施するとき、

$$248 / 10 / 6 = 4.1$$

4事業所必要となる。第3期計画の間に4事業所を整備する。

(2) 配置計画

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計画	2	2	0

（平成18年には想定利用者一人あたり1回／週の利用、
平成19年・20年には想定利用者一人あたり2回／週の利用が可能となる）

④ 認知症高齢者グループホーム

1 サービスの概要

- 介護保険法の改正により、認知症高齢者共同生活介護（グループホーム）は第8条 14 項で地域密着型サービスとして、また、第 18 条二 14 項では介護予防地域密着型サービスとして位置づけられた。見直しにより要介護・要支援認定者のすべてが利用できる。

2 利用者の状況

(1) 給付実績からみた状況

認知症対応型共同生活介護利用者の人数は以下の通りである。

一か月あたりの実績

(人/月)

(平成15年10月実績 14人)

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成16年10月	3	3	5	1	3	2	17

介護度別実績（平成16年10月）

介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
3	5	4	3	2	17

(1) アンケート調査の結果からみた想定

認知症の症状（問39）について、3項目すべてが「ひんぱんにある」と回答した人のうち、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（問16①）を「利用したい」と回答した件数は11件

回答者 2,135 件中の想定対象者割合：11/2,135 件×100=0.5%

市全体の要介護認定者に占める想定利用者数：

6,177 人（平成16年度要介護認定者数実績）×0.5%=31人

(2) アンケート調査結果からみた意向

- 居宅サービス利用者調査では、全体では2.5%が重要であると回答している。要介護度、地区での大きな違いは見られない。

3 市内施設の現況

事業所名	所在地	備考
グループホームみんなの家 府中	第六地区(四谷)	2ユニット 18名(府中市民7名)
グループホーム 府中	第二地区(是政)	1ユニット 6名 (ほぼ全員府中市民になる見込み)

- ・平成17年度に2事業所開設予定 第二地区(是政)
第六地区(分梅町)

4 福祉空間整備計画

(1) 考え方

アンケート調査の結果からみた利用推定人数から現在府中市内のグループホームに入居の人数(13人)と平成17年開設予定の事業所に入居する予想人数(1事業所5人、計10人)を差し引く。

$$31人 - (13人 + 10人) = 8人$$

1事業所必要。第3期計画の間に1事業所を整備する。

(2) 配置計画

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計画	1	0	0

⑤ 小規模（定員 30 人未満）介護老人福祉施設

1 サービスの概要

介護保険施設としての指定を受けているが、そのうち定員 29 人以下の小規模施設については、地域密着型介護老人福祉施設とされ、地域密着型介護老人施設入所者生活介護を提供することとなった。他のサービス同様、市内の被保険者だけが利用できる。

2 利用者の状況

(1) 給付実績からみた状況

介護福祉施設利用者の人数は以下の通りである。

(人/月)

一か月あたりの実績

(平成 15 年 10 月実績 565 人)

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成 16 年 10 月	104	103	104	77	101	74	563
介護度 1	5	2	5	7	7	1	27
介護度 2	14	14	7	10	20	9	74
介護度 3	25	16	25	13	18	14	111
介護度 4	36	32	29	32	24	24	177
介護度 5	24	39	38	15	32	26	174

3 市内施設の現況

事業所名	所在地	備考
あさひ苑	第一地区(朝日町)	
信愛緑苑	第一地区(緑町)	
たちばなの園白糸台	第二地区(白糸台6丁目)	
安立園	第三地区(晴見町)	
信愛泉苑	第五地区(武蔵台)	
よつや苑	第六地区(四谷)	
鳳仙寮	第六地区(西府町2丁目)	

資料：平成 17 年度介護サービスガイド（府中市介護保険課）

4 福祉空間整備計画

(1) 考え方

できるだけ長く住み慣れた自宅で暮らし続けることを支援するため、入所系サービスは最小限とする。

(2) 配置計画

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第1地区～第6地区 1	0	0

(モデル的なものと考え、第3期計画の中で方向性を見極める)

小規模（定員 30 人未満）で介護専用型の特定施設

1 サービスの概要

- ・ 介護保険法の改正により、有料老人ホームその他法 18 条 11 項の厚労省令で定める施設であってその入居者が要介護者、その配偶者その他厚労省令で定める者に限られるものを「介護専用型特定施設」と呼ぶこととなった。
- ・ このうち、入所定員 29 人以下のものが「地域密着型特定施設」として位置づけられた。
- ・ 市町村は、介護保険事業計画を上回る場合は指定拒否が可能となる。

2 利用者の状況

(1) 給付実績からみた状況

特定施設入所者生活介護利用者の人数は以下の通りである。

(人/月)

一か月あたりの実績

(平成15年10月実績 75人)

	第一地区	第二地区	第三地区	第四地区	第五地区	第六地区	合計
平成16年10月	20	23	23	24	11	13	114
要支援	1	1	0	0	1	1	4
介護度1	4	7	4	9	1	6	31
介護度2	8	6	6	6	0	3	29
介護度3	5	4	9	2	5	1	26
介護度4	1	2	4	6	1	0	14
介護度5	1	3	0	1	3	2	10

(2) アンケート調査結果からみた想定

- ・ 居宅サービス利用者調査では、全体の 4.6%が重要であると回答している。要介護度、地区での大きな違いは見られない。

2 市内施設の現況

事業所名	所在地	備考
ヘルス・ケア・ヴィラ府中	第四地区(本町)	
ベネッセホームくらら京王東府中	第二地区(八幡町)	
ボンセジュール白糸台	第一地区(白糸台)	
東府中桜湯園	第一地区(若松町)	
デンマーク INN 府中	第一地区(緑町)	
未来倶楽部府中	第四地区(矢崎町)	

資料：平成 17 年ケアマネージャー・ガイド（府中市）

(その他指定外の有料老人ホーム 3 箇所 第二地区、第四地区、第五地区)

4 福祉空間整備計画

(3) 考え方

できるだけ長く住み慣れた自宅で暮らし続けることを支援するため、入所系サービスは最小限とする。

(4) 配置計画

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第1地区～第6地区 1	0	0

(モデル的なものと考え、第3期計画の中で方向性を見極める)

4. 福祉空間整備計画一覧

◎地域包括支援センター（市役所内を予定）

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第四地区 1	0	0

①小規模多機能型居宅介護配置計画

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第一地区 1	第五地区 1	0

・利用推定人数の多い地区（第一地区、第五地区）順に1事業所／年、配置する。

②夜間対応型訪問介護

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第四地区 1	0	0

・市内1事業所のため、市の中心部を拠点とする。

③認知症高齢者専用デイサービス

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第二地区 第六地区 2	第一地区 第五地区 2	0

・既存の認知症グループホームのある（第二地区、第六地区）にまず平成18年度2事業所配置する。平成19年度は地域密着型サービス①～②・④～⑥の配置の少ない地区で認知症グループホームのない地区に配置していく。

④認知症高齢者グループホーム

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第三地区 1	0	0

・既存の認知症グループホームは、府中市の南東（第二地区）、南西（第六地区）にあるため、北中央（第三地区）に配置する。

⑤小規模介護老人福祉施設

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第五地区 1	0	0

・介護老人福祉施設、有料老人ホーム、高齢者住宅の合計数が少ない地区（第五地区）に配置する。

⑥小規模で介護専用型の特定施設

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計 画	第三地区 1	0	0

・介護老人福祉施設、有料老人ホーム、高齢者住宅の合計数が少なく、有料老人ホームのない地区（第三地区）に配置する。

府中市福祉施設等地区別分布図



5. 参考：アンケートからみたニーズ、事業者参入意向など

アンケート調査から、地域密着型サービスに対する利用者の考え方及び小規模多機能拠点に対する事業者の参入意向をみた。

(1) 居宅サービス利用者の地域密着型サービスに対する考え方

① 全体結果

地域密着型サービスの中で重要だと思うサービスについては、「わからない（28.0%）」が最も多く、次いで「小規模多機能型の居宅介護（18.2%）」、「定員 30 人未満の特別養護老人ホーム（10.7%）」となっている。

② 要介護度別

要介護度別にみると、いずれの要介護度でも「小規模多機能型の居宅介護」が「わからない」に次いで多くなっている。要介護4では「定員 30 人未満の特別養護老人ホーム（15.4%）」が、要介護5では「夜間対応型訪問介護（12.7%）」が他の介護度と比べて高い。

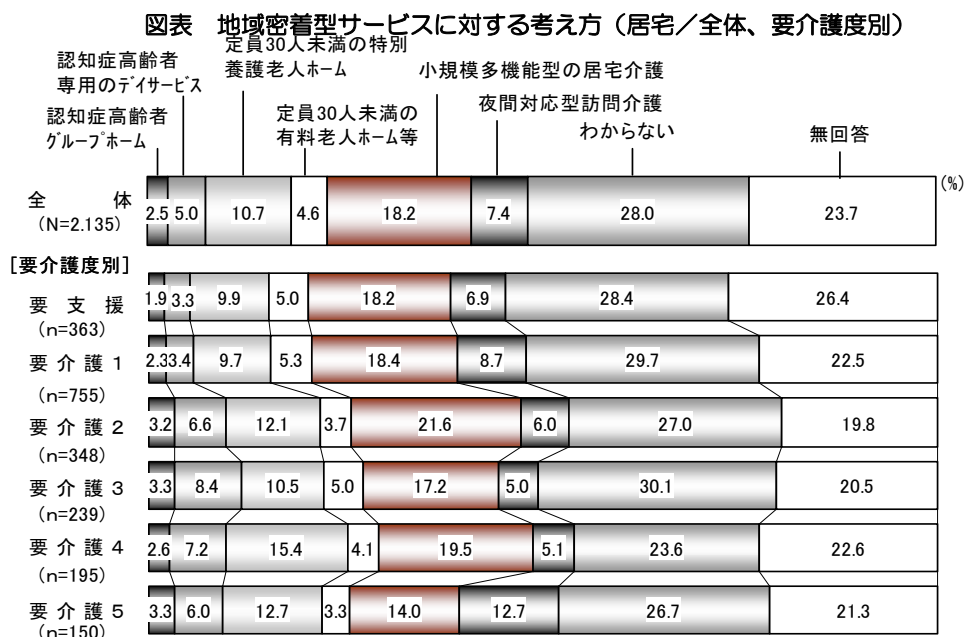
③ 地域別

地域別にみると、「わからない」を除くと、すべての地域で「小規模多機能型の居宅介護」が多くあげられている。

④ 年代・世帯構成別

年代・世帯構成別にみると、65 歳以上のひとり暮らし高齢者（480 件）では、「わからない（26.7%）」以外は、「小規模多機能型の居宅介護（14.6%）」が最も多い。続く「夜間対応型訪問介護（12.5%）」は全体よりも5ポイント高くなっている。

同居家族が全員 65 歳以上の高齢者世帯（452 件）では、「わからない（32.1%）」、「小規模多機能型の居宅介護（17.9%）」が続いている。



図表 地域密着型サービスに対する考え方（居宅／全体、地域別）

	合計	Q18.最も重要だと思うサービス								
		認知症高齢者グループホーム	認知症高齢者専用のサービス	定員30人未満の特別養護老人ホーム	定員30人未満の有料老人ホーム	小規模多機能型の居宅介護	夜間対応型訪問介護	わからない	無回答	
全体	2135 100.0	54 2.5	106 5.0	228 10.7	98 4.6	389 18.2	157 7.4	597 28.0	506 23.7	
地域	第一地区	420 100.0	10 2.4	13 3.1	50 11.9	24 5.7	83 19.8	32 7.6	116 27.6	92 21.9
	第二地区	339 100.0	10 2.9	24 7.1	22 6.5	15 4.4	60 17.7	22 6.5	108 31.9	78 23.0
	第三地区	434 100.0	11 2.5	22 5.1	46 10.6	18 4.1	79 18.2	42 9.7	125 28.8	91 21.0
	第四地区	265 100.0	5 1.9	17 6.4	31 11.7	14 5.3	44 16.6	21 7.9	67 25.3	66 24.9
	第五地区	285 100.0	7 2.5	14 4.9	38 13.3	9 3.2	58 20.4	16 5.6	83 29.1	60 21.1
	第六地区	292 100.0	8 2.7	15 5.1	36 12.3	11 3.8	58 19.9	18 6.2	72 24.7	74 25.3

(人)
(%)

図表 地域密着型サービスに対する考え方（居宅／65歳以上ひとり暮らし高齢者）

No.	カテゴリー名	n	%
1	認知症高齢者グループホーム	12	2.5
2	認知症高齢者専用のサービス	12	2.5
3	定員30人未満の特別養護老人ホーム	48	10.0
4	定員30人未満の有料老人ホーム等	31	6.5
5	小規模多機能型の居宅介護	70	14.6
6	夜間対応型訪問介護	60	12.5
7	わからない	128	26.7
	無回答	119	24.8
	全体	480	100.0

図表 地域密着型サービスに対する考え方（居宅／高齢者世帯）

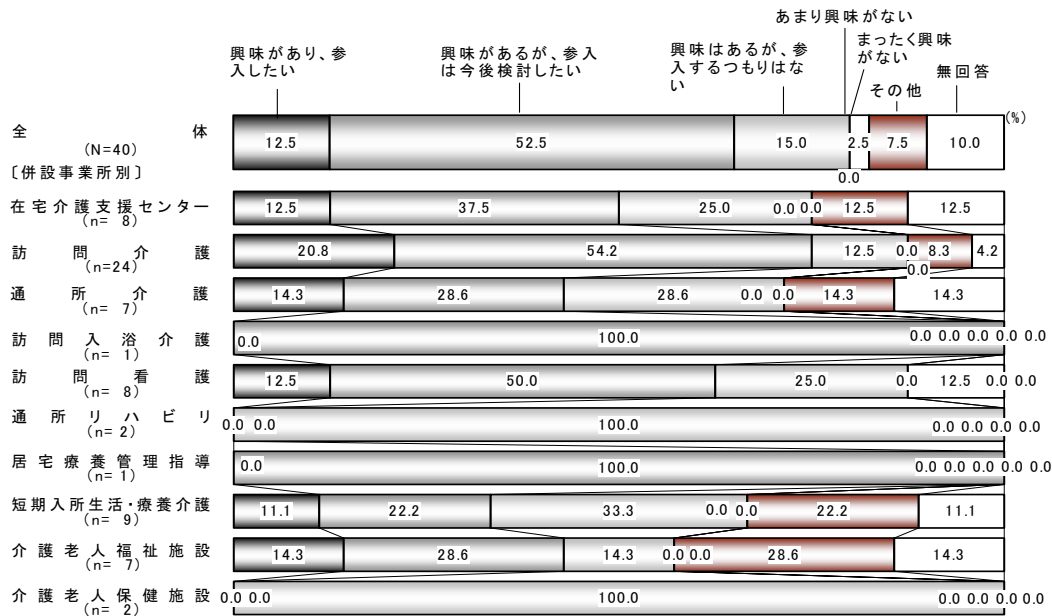
No.	カテゴリー名	n	%
1	認知症高齢者グループホーム	15	3.3
2	認知症高齢者専用のサービス	14	3.1
3	定員30人未満の特別養護老人ホーム	48	10.6
4	定員30人未満の有料老人ホーム等	23	5.1
5	小規模多機能型の居宅介護	81	17.9
6	夜間対応型訪問介護	24	5.3
7	わからない	145	32.1
	無回答	102	22.6
	全体	452	100.0

(2) 事業者の小規模多機能拠点についての考え方

サービス併設事業所の居宅介護支援事業者の小規模多機能拠点についてたずねたところ、「興味があるが、参入は今後検討したい（52.5%）」が半数を超え最も多く、「興味はあるが、参入するつもりはない（15.0%）」、「興味があり、参入したい（12.5%）」が続いている。

併設事業所別に参入意向をみると、訪問介護の20.8%が最も多くなっている。

図表 小規模多機能拠点についての考え方（事業者／全体、併設事業所別）



(3) 両調査の結果から

利用者調査の結果からは、地域密着型サービスについて「わからない」という回答が約3割で周知度が低い様子がうかがえる。その他の回答では、全体、要介護度別、地域別、年代・世帯構成別のいずれの結果からも「小規模多機能型の居宅介護」が最も重要だという回答が多くなっている。特徴的なのは、要介護5と65歳以上のひとり暮らし高齢者では、「夜間対応型訪問介護」を重視する意見が全体と比べて多く、夜間や緊急時にも対応する24時間体制のサービスが求められている。

一方、事業者ではサービスを併設している居宅介護支援事業者の約1割は「興味があり、参入したい（12.5%）」、約5割は「興味があるが、参入は今後検討したい（52.5%）」と回答している。事業者の関心度は高く、今後の動向によっては参入を検討したいという様子がうかがえる。